

1. 評価結果概要表

作成日 H19年10月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201744
法人名	社会福祉法人 幼老育成会
事業所名	グループホーム サクラ
所在地	〒857-0028 長崎県佐世保市八幡町1-2 (電話) 0956-24-3710

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月29日

【情報提供票より】(H19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 3月 1日(平成15年8月1日別棟増設)		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	15 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 20.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	鉄筋コンクリート	造り
	平屋	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(100,000円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	420 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千住病院	初瀬歯科
---------	------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

初代理事長は福祉の基本「ゆりかごから墓場まで」を目指し、山を開墾され幼老育成会の保育園や高齢者関連施設を開設されている。特に高齢者福祉は在宅から入所までニーズに応じたサービス提供で、グループホーム入居者も例外に漏れず馴染みの関係や継続性に繋がる援助を受けられている。又、医療連携体制も確立されており、【安心、安全】の提供をされている。入居者と職員、双方の人格が関わり命と生活を共有するという相互作用の中で双方が成長し、グループホーム全体のスローガンである「あったか家族」が形成されたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、改善課題の介護計画の見直しと個別の記録については改善計画シートを作成し、取り組みをされている。個別記録は介護計画、統一したケア、評価、見直しに繋がる記載を心がけ、本人のエピソードや変化などを具体的に記録し、職員の対応も記録されており、見直しや次の介護計画にも反映されている。定期的又は、随時の見直しは現状に即したもので本人の出来ることにスポットを当てた介護計画を立て実践されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 時間を工面しながら全職員で自己評価の取り組みをされ、業務の見直しや気づきなど得られている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回開催されており、ホーム紹介や日頃のサービス内容・状況などを伝え、参加メンバーから意見など伝えてもらい、今後のサービス向上に反映した取り組みに努められている。又、今回の自己評価項目の説明と取り組み状況の説明をされたところ、「項目が多くて大変」という家族の声も聞かれた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族から「良くしてもらっている」という評価を頂いているが、更なる向上を目指して、意見など伝えてもらえるよう、弛まない雰囲気作りや機会作りを意識・検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 高台の場所に立地しており、ホーム周辺が新興住宅と関連施設という制約の中での取り組みである。法人グループの運動会や秋祭りなど協働した取り組みではあるが、地域の要所にポスターの掲示をするなど、地域を意識した取り組みで回を重ねるごとに参加者も増えて定着化している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	山を開墾されて社会福祉法人・幼老育成会の諸施設を創設されている、その中にグループホーム・サクラがある。【明るく、強く、正しく】の共通理念をベースに、毎年、各ユニットごとのスローガンを掲げられ、勉強会で半年に1回スローガンの評価・見直しをされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の【理念】意識の根底に【笑顔、安心、信頼】があり、コミュニケーションとゆとりのある介護を心がけられている。入居者の状態と能力にあわせて関わりの時間を持たれており、日中関わりが少なかった入居者とは夜に、許容範囲内で関わりの時間を作られ入居者の精神作用の安定を図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高台に立地しており、ホーム周辺が新興住宅と関連施設という制約の中での取り組みである。法人グループの運動会や秋祭りなど協働した取り組みではあるが地域の要所へポスターの掲示など、地域を意識した取り組みで回を重ねるごとに参加者も増えて定着化している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、時間の許す限り全職員での取り組みをされている。又、外部評価当日には、施設長も時を得た同席をされ、職員と経営者協働の取り組みの姿勢が窺えた。前回の改善項目に関しては改善計画シートを作成され、職員の意識付けや方向性に繋がる取り組みをされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに2ヶ月に1回のペースで開催されており、ホーム紹介やサービス現状など伝え、それについて質疑応答され今後のサービス向上に活かせるよう努められている。今回は、外部評価内容を報告・検討し、会議メンバーの率直な意見も参考に、ホーム運営に反映させたい意向も持たれている。		

グループホーム サクラ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は法人全体での取り組みが主流であるが、積極的に介護相談員制度【虹の会】の受け入れはされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時の声かけやたよりの郵送など通信手段を通した入居者の様子伝達以外に、入居者と家族の許容範囲内で、早朝の散歩の連れ出しを家族にしてもらうなど介護に家族の協力を得た取り組みをされており、家族と職員の情報の共有ができています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から「良くしてもらっている」という評価を頂いているが、更なる向上を目指して意見など伝えてもらえるよう、弛まない雰囲気作りや機会作りを意識・検討されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって職員の離職や異動などの環境の変化に対するダメージは周知されている。法人内行事を通して他の職員と入居者の交流の場を設けたり、研修・試用期間の補助体制などでダメージの軽減に繋がられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や定期的内部学習会を通して、職員の育成に努められており、資格取得の支援もされている。外部研修受講後は報告書作成や伝達講習など情報の共有に繋がる取り組みをされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職種別連絡協議会の研修や学習会などへの参加を通じた交流をされている。又、ユニット間で気づきやアドバイスを伝えることで改善・向上の取り組みをされている。訪問当日、対話の閉めに施設長から現状維持・満足にとどまることなく進歩を期待して【新しい風】を取り入れることを提案される。		更に、他の施設やグループホームの見学・体験を通して見聞を広げるなど、新しい風を取り入れる提案を受けた取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>インテーク面接(受付面接)と入居までに何度かの来訪で体験してもらうなど取り組まれている。又、待機者を対象にホーム生活の紹介ビデオの上映会などの取り組みもされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ピア介護や動物とのふれあい介護など距離を置いたサービスの提供で入居者一人ひとりの能力、興味、経験などを活かす環境を職員は提供し、見守りと誘導を適宜使い分けた支援を行っている。入居者には有用感、達成感などを、職員は観察を通して学ぶことに繋がられている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>発語の少ない入居者に関しては、サインや声かけ時の反応の読み取りで、意向の把握に努められている。又、ケアの統一を図るため職員間で情報の共有に繋がる伝達を確実にされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンス会議を通して、入居者の現状に即した介護計画作成を心がけられている。現在、センター方式から独自のものを作り出すため、課題、トラブル、癒し、和みなどについて本人・家族のアンケートを基に研修会を設けて勉強中である。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の現状に即して定期的又は、随時の見直しをされている。見直しの際は、身体機能の低下を危惧して、少しでも可能なことがないか【できること】に注目して計画に挙げられている。</p>		

グループホーム サクラ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の複合施設の資源も登用させた中でグループホームの能力も活かした取り組みをされている。入居者に対しては医療面での24時間365日の安心サポート体制や、家族も一緒に同行する一泊旅行などの支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望のかかりつけ医の受診支援をされており、事業所のホームドクターとの医療連携も医療関係者間の情報提供書のやり取りで情報の共有を図られている。受診同行は基本的に家族対応である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の適用を受けられており、看取りの指針も作成され、本人・家族の意向に沿える体制作りができています。又、状況変化に応じた関係者とのその都度の話し合いや段階的な合意の必要性など職員は周知されており、重度化や終末期に向けた取り組みへの意識が高い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりと瞬時を大事に関わられており、言動にも細やかな配慮が見られる。又、記録物なども特定の場所で保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム生活の流れの中に、入居者の体調、趣味、要望、経歴など把握した取り組みで、観察 気づき つなぎの流れが自然な形でケアに活かされ、見守り、声かけ誘導も入居者主体である。		

グループホーム サクラ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者・職員が育てたホーム菜園の採れたて野菜を食材で使われたり、入居者の能力に応じた食生活の流れへの関わり支援をされている。又、食卓の席の配置も入居者の相性など考慮されており、入居者同士でかいがいしくお世話される場面や食事を通じた会話など家庭の団欒が窺えた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の提供であるが、入居者の要望や状態に応じた対応でシャワー浴や部分浴の対応はされている。尚、足浴は毎日提供されている。市内の温泉湯を運んで月に2回の温泉浴の日は、「肌がツルツルになる」、「気持ちいい」など入居者も喜んで入浴されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム生活の流れの中に、入居者の能力・経験などを通して日常生活作業のかかわりはもちろん、趣味や特技を活かしてカラオケや生け花など活躍の場の提供もされている。又、入居者同士で能力を出し合って相乗効果のあるピア介護も温かい職員の見守りの中成立している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ロケーションと入居者のレベルダウンなどから外出の支援に制約が生じていることを実感されているが、家族の協力で日課にされている入居者もいる。息子さんが毎朝、ホームに來所して母親を散歩に連れ出し、時間をかけて交流されている。管理者との対話の最後の際には積極的に取り組みの表明をされ、公言することで自らに負荷をかけ、向上意欲を示された。		外出支援に繋がる具体的な視点として挙げられている2点の取り組みに期待する。一つは、【出ない】【出さない】【出れない】のどれに当てはまるか常に意識して検討する。もう一つは、外出の固定観念を払拭して、入居者一人ひとりの現状に応じた外気に触れる・感じられるなど些細な支援も範疇に取り入れることを表明されている。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エントランスドアと玄関ドアの2重構造になっており玄関ドアは安全のため、家族の了解を得て日中でも施錠されている。エントランスドアは自由に入出入りできるが、徘徊センサーで点灯する仕組みになっており、入居者の外出の傾向を察知できるようになっている。又、玄関ドアには(外出の際は声かけをお願いします)の表示がしてあり、ソフトな対応である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防火を中心とした災害避難訓練等は消防署の指導の下、実際を想定して入居者と共に取り組みをされているが、風水害、地震等の自然災害に備えた対応手順などの取り決めはされていない。		自然災害時の広域避難場所の確認や避難経路、関係連絡機関の把握、持ち出し品リストや備蓄品などライフラインに繋がる取り決めが望まれる。

グループホーム サクラ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携体制の充実で食事の面からも健康管理をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体的に広く、調度品は家庭的で装飾なども季節を取り入れたもので熟年の感性を刺激する気配りである。又、人の気配を感じながら独り居や集いの場を選べる空間作りがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見せていただいた居室からは、入居者の趣味や生活観が窺え、装飾などインテリアなどにも個性があり入居者にとって住処になっている。		